

## 東京市衛生課 屍体処置に関する調 (9月2日~9月30日)

区名/性別	陸上収容分			河川収容分			合計
	男	女	不明	男	女	不明	
麴町	116	80	1	4	3	0	204
神田	163	58	114	8	2	0	345
日本橋	99	87	51	27	46	2	312
京橋	132	54	0	89	121	0	396
芝	102	34	9	14	14	0	173
麻布	10	16	0	0	0	0	26
赤坂	49	54	0	0	0	0	103
四谷	2	0	0	0	0	0	2
牛込	24	28	0	0	0	0	52
小石川	30	12	0	0	0	0	42
本郷	54	30	9	0	0	0	93
下谷	168	73	0	0	0	0	241
浅草	349	642	1,375	17	10	1	2,394
本所	767	970	40,157	0	0	8,650	50,544
深川	895	732	585	389	421	107	3,129
(永代)	0	0	0	270	320	10	600
合計	2,960	2,870	42,301	818	937	8,770	58,656

(『東京市震災衛生救療誌』)

震災・火災による犠牲者は多数にのぼり、引き取り人のない遺体の収容・処理は保健衛生の観点からも喫緊の課題となりました。東京市では9月末までにのべ9,441人の臨時作業員を雇い上げ、58,656体の遺体を収容、既存の火葬場に加えて仮火葬場を設置して処理していきました。

上の表は遺体収容数を当時の15区、及び隅田川河口の永代付近に分けて集計し、性別、陸上か河川かという収容場所の区分とともに示しています。大震災がもたらした悲惨な被害の状況と、地域ごとの偏差を読み取ることができるとでしょう。